

ISC NEWS

International Student Center News

創刊号

DECEMBER 1997 VOL.1

金沢大学留学生センター・ニュース



学留学生センター

留学生日本語研修コース

4期間講式

学長挨拶	1
留学生センター員の導師宣誓	2
留学生センターの活動紹介	3
・目的と位置	3
・センターの活動	4
・日本語学のコース	4
・相談指導	4
・インフォメーション	5
留学生センター・留学生課スタッフ紹介	5
編集陣記	7

学長挨拶



国際化と留学生への対応

国際化とは、その範囲を極限にまで押し進めるすれば、国家間の境界をなくすることはもちろん、それぞれの宗教、民族、文化などがもつ枠内にとどまることなく、それらをすべて一つの世界に融合されることとなり、またそれを目指しているのである。いわばあらゆる角度、範囲における国家間、民族間を含むボーダレス化を目指しているのである。しかし現在の世界状況から考えても、現実に宗教間、民族間などの対立の消去することはほど至難な問題は存在せず、したがって国際化の構造軸心を成立、実現されることはもともと無理な目標とも云えよう。とはいっても国際的に横たわっているさまざまな境界を取りはらって理解と友情を結実することによって世界が一つにまとまるように努力することは当面する重要な課題であり、そしていつまでも課題として残り得るものなのである。それを個別な対応としてお思するならば、宗教、民族、国家、そしてそれらにかかる文化などの面で異なるような人々を受け入れる、それも積極的に受け入れることであり、また受け入れることから国際化がはじまっていく。

大正9年に国際連盟事務次長に就任された新渡戸稟造先生は、「我れ太平洋の橋たらん」という有名な言葉を残されているが、その生涯は異質の文化、思想などを間に相互理解の橋をかけるのに力を盡されたのであった。同時に日本人の心も見つめ、他国の人々に日本の文化、思想の基本を理解させること

金沢大学長 岡田 覧

にも努力されたのであったが、すなわち日本の伝統的な価値観であつたいわゆる「島の文化」とキリスト教の価値観である「界の文化」との間に橋をかけることに心がけ、両者の相互理解につくされたときれている。このように国際化の観点に横たわり、その基本となることは、相手を理解するとともに自分のことも主張することによって同時にお互いによく理解しあうことなのである。

ある国の印象というものは、出会った人々の印象によって決定されがちであることは、私の経験から言えると思う。留学生の金沢大学における、あるいは日本についての印象もこのキャンパスで触れ合う人々によって決定づけられるのである。そこでは「国際交流」というよりも現実的な「人間対人間」の交流ではじまるのであり、互いにおけるさまざまな経験と経歴がおこってくる。横たわる生活習慣、文化の違いやお互いの誤解から軋轢を生じることも当然あり得ることであり、それを乗り越える努力こそ肝要なのであって、それを踏み越えてはじめて本当の国際交流が成立するのである。我々の側から言えば、よい印象をもたられるような触れ合いに心がけることが大切なのであり、好感の持てる人になるようにつとめることが必要なのである。最後に留学生センター、とくにこの留学生センター・ニュースは、金沢大学と世界とをつなぐ重要なチャネルであるからこそ、その充実と発展をこの機会に心から願いたい。



留学生センター・ニュースの発刊に当たって

金沢大学の留学生教育センターがより大きい規模の留学生センターとして出発して早くも2年がたってしまった。当初から企画されていたこの留学生センター・ニュースがやっと2年目に発行できることになった。喜ばしいことであるとともに、こんなに遅くなってしまって申し訳ない気持ちもある。

この2年間、センターに新しい教官、事務官が赴任てきて、センターのメンバーは、留学生課のスタッフを加え12名となった。日本語教育も、金沢大学の留学生に日本語を教える従来の精霊のコースに加え、新しく日本語研修コースもでき、また、来年より短期留学プログラムも動きだすことになった。この日本語研修コースは、金沢大学を含む主として北陸地域にある各大学で研究を行う予定の留学生が6ヶ月間で集中的に日本語を学習するコースである。

この2年間、これらの人々の受け入れ準備に忙殺されていたが、大学の国際化という面からすれば、センターへの期待、要望は大きく、我々は早急によりよい留学生の受け入れ体制を確立するとともに、留学生がここから、金沢大学に彼らの文化を発信できる体制を整えたいと思っている。

我々にとっても期待、希望は大きいが、それを現実化するためには、異文化とのコミュニケーションを図り、お互いの心を通い合わせていくことが大切であり、そのことに多くの事務的な仕事を山積みされることであろう。我々は駆け足できたが、更に気

持ちを新たに一つ一つのことに向っていくことが大切であろう。

いずれにしても、本学でキャンパスライフを送った留学生達が金沢大学の学生、教官、事務官と交流を深め、新しい思い出を沢山つくってくれることを心から願う。さらには、ここで得たものが、帰国後それぞれの国の各分野で行き先。各国と我が国との強い絆となって行くことを切望して止まない。

留学生センターの活動紹介

留学生センターは、学内共同教育研究施設の一つとして平成7年4月に設置された、比較的新しい部局の一つです。

平成9年4月現在、留学生センターのある国立大学は全国で26校です。

(1) 目的と役割

留学生センターは、外国人留学生及び留学を希望する本学の学生に、日本語・日本文化をはじめとする必要な教育並びに修学・生活上の指導や助言等を行うことによって、留学生交流を推進することを目的としています。

留学生センターの主な業務は、次のとおりです。

- ①留学生交流の推進に関すること。
- ②外国人留学生に対する日本語・日本文化及び日本事情に関する教育に関すること。
- ③外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導・助言に関すること。
- ④外国人留学生に対する予備教育に関すること。
- ⑤海外留学を希望する学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- ⑥留学生教育の調査研究に関すること。
- ⑦その他の留学生センターに関する必要な業務

(2) センターの活動

留学生センターでは、日本語等3コースの開講及び留学生の面談・指導を行っています。

日本語等のコース

日本語研修コース 主に大学院レベルの国際外国人留学生（研究留学生及び教員研修留学生）を対象に、研究活動に必要な日本語能力を獲得するため、6ヶ月間で集中的に日本語を学習するコースです。前期（4~9月）と後期（10~3月）に開講し、週5日、一日8時間の日本語学習に取り組んでいます。

日本語・日本文化研修コース 出身国で日本語や日本文化等を学んでいる留学生（日本語・日本文化研修留学生）を対象に、日本語能力の向上や日本文化への理解を深めることを目的としたコースです。

日本語補講コース 全国大学に在籍する留学生全員を対象に、日本語の初級入門から上級クラスまで、留学生の日本語のレベルに合わせたクラス編成を行い、前期（4~9月）と後期（10~3月）に開講しています。

更に必要に応じて、長期休業期間には特別補講を実施し、留学生の日本語能力の向上と取り組んでいます。

相談指導

留学生センターでは、主として金沢大学で学ぶ外国人留学生を対象に、留学目的を達成することはもちろん、日本での留学生活の充実を目指して、アドバイスやカウンセリングの機会を提供しています。

また、留学生教育研究室（工学部）や海外交流室（経済学部）の置かれている学部でも、留学生の相談・助言を行っています。

留学生センターは、各部門担当者と連携し、留学生の直面する問題の早期解決のための協力体制を作るとともに、様々な留学生問題を取り組んでいます。

相談は随時受け付けています。

●留学生センター・相談室

TEL(076)264-5770 FAX(076)234-4058

●工学部・留学生教育研究室

TEL(076)234-4936 FAX(076)234-4937

〈月・水・金 9:30～12:00 13:00～17:00〉

●経済学部・海外交流室

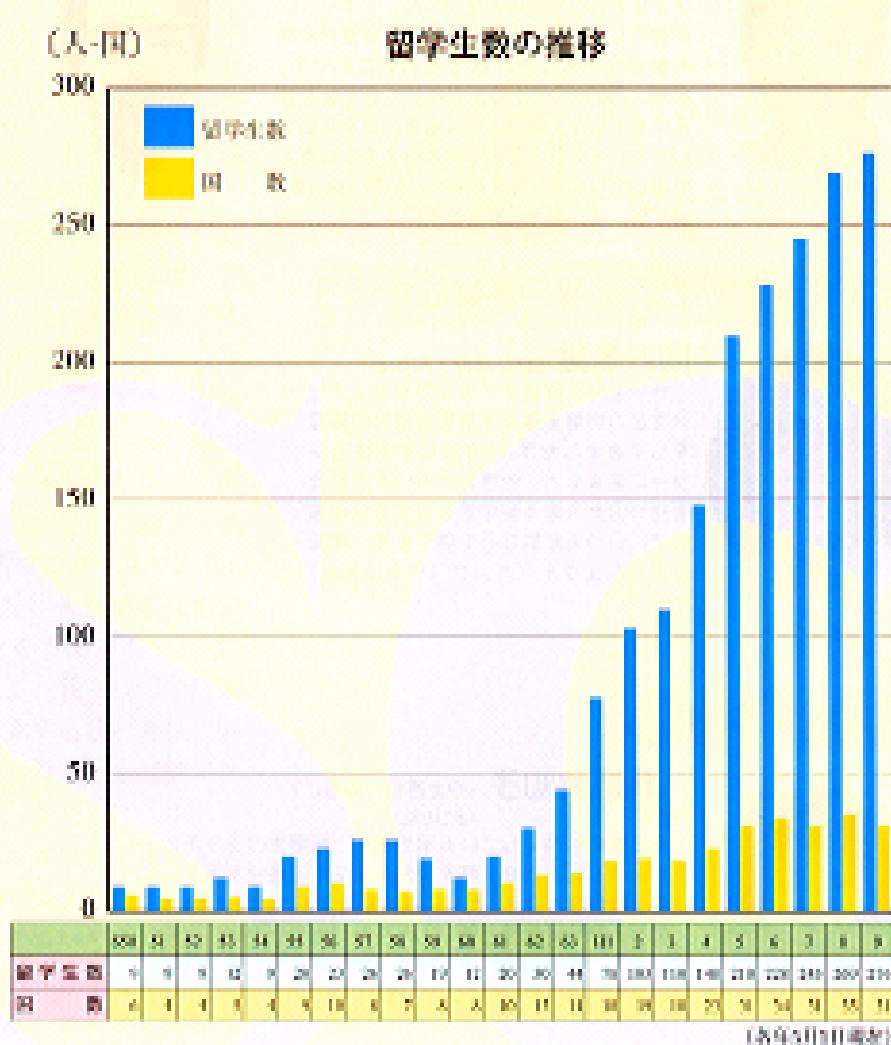
TEL(076)264-5442

〈月・水・金 9:00～17:00〉

(3) インフォメーション

平成9年10月1日現在で、金沢大学で学ぶ留学生が306名となりました。

- ・右図の留学生数は、毎年5月1日現在の数です。
- ・100名を超えたのが平成2年、その後の平成5年に200名を超えました。
- ・平成9年5月1日では276名ですが、同年10月1日で初めて300名を超える留学生が、金沢大学で留学生生活を送っています。
- ・修士・博士の学位を取得する目的の大学院正規生が一番多く（61%）在籍しています。
- ・留学生全員の4人に1人が自然科学研究科で学んでいます。



留学生センター・スタッフ紹介

留学生センター長



伊藤利明 (いとう としあき)

日本語等教育部門



三浦香苗 (みうら・かえり)

日本語を初めて教えるさせられた人は、アメリカ人の英語の先生でした。すばらしい生徒でした。その生徒から外國語学習の姿勢を拾えられました。20年も前のことです。背水、「負うた子に歎えられ」で日本語を教えてきました。留学生が「ああ、日本に留学してよかった」と言ってくれるような感動を経験しています。好きなものは、魚、肉、魚、火、猫、花、樹木、草花などです。



黒田 正志 (くろだ・まさし)

早いもので、広島からこちらに来てこの12月でもう一年になろうとしています。出来のバラグアイ人である家内も、ようやくこちらの生活に慣れてくれました。センターでは、主に日本語講義コースを担当しています。専門は西班牙ですが、留学生からの「扱い」質問には満足をいくことができています。

大学院予備教育 及び 専門基礎教育部門



岡沢孝雄 (おかざわ・たかお)

長い間熱帯地域でマラリアやフィラリアなどの病原を研究する微生物学の研究をしてきましたが、2年前に留学生センターに来ました。世界のいろいろな文化を持つ国から来る留学生との交流は刺激的で、いつも翻訳を心がけています。趣味はブッシュウォーキング(ヤマガルガキ)です。

相談指導部門



八重澤美知子 (やえざわ・みちこ)

(以下) (連絡先)

心理学の勉強をしていた学生時代、留学生のクラスメートがいました。日本、様々な文化を教える機会が増え、文化と人間発達とのつなわりに興味を持つようになりました。

異なる文化的背景を持つ人たちとの出会いを楽しみにしています。困った時だけでなく、話し相手が必要な時にはいつでも連絡してください。

留学生課・スタッフ紹介

留学生課長



中島 幸治 (なかじま・こうじ)

北海道を振り出しに、青森県、茨城県、埼玉県を転勤し、今年の4月に仙台大学に来ました。留学生センターと連携を図りながら職務を始めたいたと想っております。休日のドライブとゴルフを楽しんでいます。

専門員



松井秀治 (まつい・ひでじ)

昭和26年2月生まれの46才です。本年4月に国際語入事課から留学生課に配置換えになりました。本学に就職されてから約27年間人権系専攻に従事していくため学生系事務はまったくの素人であります。毎日見ること聞くこと知らないことが多い、一日も早く慣れるよう勉強中であります。

専門職員



山下鉄也 (やました・てつや)

留学生用宿泊施設運営会員の管理運営を担当。
人居前の住み良い環境づくりに苦心しています。

留学生交流係



木村茂和 (きむら・しげかず)

留学生の受け入れや派遣留学生の面倒見をしています。
学生のみなさんに感じことは、学習研究の場である「大学」という場
精神をも含めた学習研究院にとらわれず、学生「日本人」や國人との友誼を
ともし重視し、西土に深く根ざし、日本が世界に進歩されると西風や生活
習慣などとの触れ合いを豊多く体験して、西洋での経験を心から胸に入れ
てももいきいきといふことです。

看護人間、科学技術系と関連される教職的立場の之外「国際化」と
いった異文化に接する機会もとどりつかれることもなく経験を積めておられ
、「日本文化のかな」「通訳」といったものを感じ取っていただきたいと見つけて
あります。

生徒をとおして情報収集(圖書在庫等)は、いつかある時に「何かわ
んね」といひかえ、自國の文化に対する深い興味の話をあなたにひらく
ことがあります。

【E-mail: kimura@cc.tohoku.ac.jp】



奥村陽子
(おくむら・ようこ)

今年4月から留学生課
の一員として仕事をして
います。映画を見る事、
音楽を聴く事が大好き
です。マイペースで活動
ります。

留学生教育企画係



伊藤 充 (いとう・あつみ)

東京は、4(妻、男の子2)人です。ス
ポーツ特に野球が大好きです。長男
が仙台市内の学童野球チームに所属して
いることもあり、週末には「監督」のボ
ランティアとしています。娘子で「野球」
に熱血合っています。

係員



吉田和美 (よしだ・かずみ)

国際交流会員係の仕事を担当してい
ます。午前1時から11時までの2時間半、
会館事務室にいます。本歌室の前を這
ったら、声をかけて下さい。手を振ってく
るぞだけでも嬉しいです。皆さんと日本語
でお話できるのが楽しみにしています。
(幸い今に歌はたてて日本語が上手です)

編集後記

留学生センターの活動内容を中心に、留学生と多く接觸する人々の報告をもって、新刊号の状況を考えました。留学生あるいは日本人学生の留学体験等の国際交流に関わる事柄は次回以降に引き継がれることでしょう。また学内の皆様からの御意見も掲載して行く予定です。よろしく御協力をお願いいたします。

